

設問 1 今回の金成記者様のご講演について、考えたこと、感じたことを書いて下さい。意見や感想を、詳しくお願いします。

- 戦争というのは、常に情報が飛び交いその中で正しい情報なのか正しくないのか情報リテラシー能力が求められると感じた。また、戦争を体験した人は心に一生の傷を負い新しい憎しみを生むのだと感じました。
- まず、日本と違いウクライナでは戦争の前兆が見えると市民が自ら銃器専門店で訓練をするなど、戦争に対する緊張感の差が感じられた。また、ウクライナ側が Twitter に投稿した映像をロシア側が否定していたということにとっても驚いた。また、ロシアはウクライナに侵攻して人を殺しているのにも関わらず、「被害者」や「遺体」というワードを強調してウクライナを非難していることに恐怖やいらだちなど様々な感情が入り混じった。
- 今回金成記者の貴重なご講談を聞かせていただいた上で感じたことはやはり現地入りし、現地の方がから聞いた情報を直接聞けるというのはとても自分のこれからに考えに大きな変化を与えてくれたと感じています。また世界情勢への目が自分の中でまた1段と重要性が増したと感じました。金成さん、貴重な時間を割いて私たちにご講談にお越しいただき誠にありがとうございました。
- 戦争の現実を理解する重要性が非常に大切だと思いました。金成記者はご講演で遺体が横たわる光景や被害を受けた建物の写真などを通じてウクライナでどんなことが起こっているのかが伝わり戦争の悲惨さを再認識させられました。同時にジャーナリストの大切さもわかりました。
- いつ戦争が始まってもおかしくないのでは家族や友達との時間を大切にしたいと思いました。戦争が起きてる中命懸けで取材に行くことを考えたら私は逃げるかなと思った。金成さんは命懸けで行くのすごいなと思いました。
- ウクライナのブチャで虐殺が起きてるのはのはわかっていますが生々しい写真を見ると心が痛みます。このような酷い戦争は早く終わらすべきだと思います。

- 今回の公演で私はウクライナは想像以上に深刻だと気付かされました。ニュースでは報道されない内容も講演させていただいてとても貴重な経験になりました。
- 本日は大変貴重なご講演をありがとうございました。今回のご講演で私が特に印象に残っていることは、ウクライナ政府がツイッター上で公開した映像です。人の死体を見たことがない私にとって、とても不思議な感覚を抱きました。街中にいくつもある遺体... この映像を見ると改めて戦争の残酷さを理解することができました。また首都キーウまで7kmという近さでこのような事が起きたことは初めて知りました。また飛行場が戦場になった後の映像も非常に印象深かったです。ウクライナの内部まで地上部隊が攻めてき、飛行場まで占領しようとしているところを見ると、ウクライナに脅威がかなり迫っていたことも知る事ができました。
- 今回の講演を受けた私の印象はウクライナの人々の中でも戦争前に戦争が起きる派、起きない派がいることに私は驚きました。その中でも金成さんが取材された人の中で過去の事例を持ってきて、今回の戦争は起きる可能性が高いと見立てを立て自主的に戦争の訓練を受けていることに強い印象を受けました。
- 今回金成さんの公演を聞いて改めてロシアのウクライナ侵攻の恐ろしさを実感しました。いたる所で虐殺や拷問が行われていて、悲しい気持ちになりました。一刻も早くこの侵攻が終わることを願います。
- 実際に戦場にいた方のお話を聞けてとても光栄でした。その場の映像などかなり生々しいものも見せていただきました。実際に酷くなりすぎる前だったとはいえ、初期の都市での変わり方などかなり残酷なものだと感じました
- 私は今回の金成記者様のご講演で世界にはまだまだ戦争による悲しみが多く存在しており、またヨーロッパで戦争が起こっている異常さに対しても理解を深めることができました。
- 今回、実際に現地を訪れている方のお話を聞けてネットなどで広まっている情報とは違い、実際に現地で目の当たりにしたことを聞けて、ウクライナで起きていることはとても恐ろしいことだと改めて感じました。
- 今回、現地で実際に行きインタビューした人のお話を聞き、ウクライナへのロシアの軍事侵攻というのがより深く分かりました。ウクライナ国民は戦争に対し

とても意識が高く訓練や銃の調達などをしていますが逆にロシア国民は今の状況についてどう感じているのかがとても気になりました。

- ニュースでしか見たことがなかったウクライナ戦争の実態について直に見てきた人の体験や意見を聞くことができてとても有意義だった。
- 今回ご講演を聞いて、市民対象の銃撃訓練やロシアによる侵攻が始まってからの街の様子について感じたことがたくさんあった。まず、銃撃訓練に関しては全く銃を使ったことがない一般市民の人たちがウクライナを守るためにあそこまできちんと訓練をしていた様子に痛感した。また、戦いが激しかったブチャの街の様子については映像でたくさんの人の遺体が放置されていて、本当に悲惨な状況だったんだと感じた。そして、市民の人が語っていたお話「私たちがやらなければ誰も守ってくれない。故郷は自分たちで守らないといけない」という言葉は今でも心に残っています。
- 自転車のお話のなかで、たまたま声をかけた人がつい最近撃たれたという人がいるということ自体今のウクライナはとても危険な場所なんだと改めて実感しました。「死の通り」を行こうと思った金成さんも記者としての覚悟が違うんだなと思いました。撃たれたという人は咄嗟にジグザグに逃げて銃弾を急所に当てられずに済んだらしいですが、その判断を咄嗟にできることや、撃たれたという状況を理解できているというのは、日々緊張感を持って生活しているんだろうなと思いました。もう一つ凄いと感じたことは、日本人の志願兵のお話です。その人は自分には守るものがないから志願したと言っていたのですが、そう思っているにも決断できる勇気がとても凄いなと思いました。他人事にしない気持ちは色々なことに通ずることなので勉強になりました。
- 実際にウクライナにインタビューをした人に現地話を聞いてニュースや新聞などで把握できない悲惨なことが起こっているということがわかった。また、金成さんの話を聞いて現地の人にインタビューをすることの重要性などがわかりました。sns が普及してるからこそフェイクニュースなどを自分で見分ける必要があるその中でも1番大事なのは自分の目で見て考えることだと言うことがわかりました。
- 自分の知らないウクライナのことをたくさん知れました。ロシアがウクライナ人をたくさん虐殺していることは知っていましたが、人が倒れている動画をロシアがフェイクだと否定していることは知らず驚きました。手足をしばり虐殺をされた後を見ると非常に残酷で、現代では考えられないことだと感じました。また、ホストメリの空港が占拠されないために、自ら空港の滑降路を破壊したり橋な

ども壊したということを聞いて必死さが伝わりました。軍事侵攻後夜の景色が真っ暗になっていることも環境が全く変わっているのだなと思いました。

- 今世界で起きていることを新聞を全く読んでいなかったのだから知らなかったが今回ウクライナの現状のお話を聞いて、少し興味を持ち、新聞やニュースをしっかり見てみようと思った。
- ロシアとウクライナが戦争を始める前から、ウクライナ側の市民は大学生や医者など職業関係なく家族を守るために、銃の打ち方などの軍事訓練を行って映像を見て、今の時代にもこんなことが行われていたことに衝撃を受けました。
- 貴重な公演をありがとうございました。ウクライナ戦争についてはニュースで見ていることしか存じておらず、今回の金成さんのお話を聞き今実際どのようなことが起きているのか、知ることの出来る大変貴重な機会になりました。
- 今回のご講演で僕は、情報をむやみに信用せずいろんな多角的視点で物事を捉えようと感じました。ロシアやウクライナみたいなどちらかが嘘をついてる場合になったら、正しい方をえらべるようになりたいと思いました
- ニュースでしか見れないウクライナの景色があったのですがウクライナの現状を見てしまい恐怖を覚えました。
- 今回の講演を聞いて私は自分が生活しているかんきょうがどれだけ幸せかということがわかりました。自分たちがどれだけ平和な環境で暮らして何不自由なく生活できていることに感謝しなければなりません
- ウクライナに実際に行った人のお話を聞くのはとても貴重な事だと思いました。戦前のウクライナの事情や市民たちの動きなど、初めて聞いた事しかなくてとても興味深い話でした。
- 私はウクライナ侵攻が始まる時、どうせ戦争にはならないだろうと考えていました。ですが、ニュースの報道ではロシアが戦争の準備をしていた。その影響で一般市民が銃の訓練を受けていたことを初めて知った。そしてブチャでいくつもの遺体が道に転がっている映像は初めて見ました。とても残酷でした。中には手を縛られているいたいもありました。それは虐殺なのかなと考えました。その遺体を回収して仮埋葬をした方はとても辛い思いをしながら作業しているのを知りました。回収している方がタトゥーアーティストということも驚きま

した。誰かがしなければいけないことを張りながらもしている。これはとても尊敬できることだなと感じました。

- 私は普段戦争前のウクライナをあまり気に留めませんでした。今回の公演でその時の民間人の様子や危機感の意識感を知り世界規模のことで戦争前の状況を知りませんでした。それが今回の公演で強く感じる部分がありました。
- 今回は貴重なご講演大変ありがとうございました。私は元々ウクライナ侵攻について関心があり、どのような講演をして頂けるのか非常に楽しみにしておりました。ウクライナ侵攻について調べても、真実か虚偽か見極めることが非常に困難であり、実際に現地に出向き取材した方のお話は一つ一つに重みがありました。ブチャで起こった戦争犯罪の可能性については、この講演を聴くまでは心の中で「自作自演の可能性はないのかな」と考えていましたが、ブチャで起きたことの真実を知ることができ、非常に感謝しております。
- 今回、金成さんの演説をお聞きし、ロシアによるウクライナ侵攻の知らなかったことなどがわかりその内容に衝撃を受けました。また金成さんは前までヨーロッパで働く記者としてヨーロッパで一番危険な出来事が起こっている場所に行くという仕事だと今日しり、記者という仕事に尊敬を持ちました。また私が毎日たくさんのニュースを観れるのは金成さんのような身の危険がありながら取材をする記者のおかげだとわかり感謝を持ちました。まず私は金成さんの演説を聴きウクライナ人の愛国心や心に驚かされました。なぜならゼレンスキー大統領が国外に出ず、ウクライナの子供や女性も周りの人たちを守るために軍事訓練に参加していたという内容の話があったからです。このことはニュースでは聞いたことがなかったため今日の演説で驚かされました。しかし、そのような人たちが動画にもあったブチャの虐殺のようなことでロシア軍に民間人が虐殺されておりこのことはあってはならないことだと感じました。また、その死体を身の危険を抱えながら回収する遺体回収員にも衝撃を受けました。死体を見ることは膨大な心の負担を抱えることになるがいずれこの死体を誰かが回収するなら自分が回収しようという自主性を持った民間人の死体回収員は凄まじく心が良いと感じた。このような話は直接会って取材をしたという人しか分からないため今日の講演は私にとってすごい影響がありました。また、このような状況をこれからメディアは取り上げて報道し、全国民に衝撃を与えることが大切だと思う。私はロシアによるウクライナ侵攻が一刻も早く終わることを願います。

- 自分の子供を守るために軍事訓練に参加している母親がすごいと思った。
- 金成記者様のご講演を聴いて、とても興味深い内容であったと感じました。僕たちがわからないウクライナのことなどがわかりました。このような講演を聴くことで、メディアの役割や記者の仕事に対する理解が深まりました。報道のあり方や情報の信頼性についても考える機会となりました。また、興味のあるテーマについて更に学びを深めるきっかけとなりました。金成記者様のご講演は非常に有意義で興味深いものでした。今後もこのような機会や知識を得ることができればと思っています
- まずは大変素晴らしい講演ありがとうございました。私は今回金成さんの話を聞いて、やっぱり戦争というものはいけないなと思ったことと、ウクライナで戦っている市民の人の素晴らしさを感じました。ロシアの兵士はブチャでウクライナの市民を虐殺したり、非人道的な行為してるのを聞いて、自分の心の中でも思ったことがあります。また、ウクライナを守るために、自ら訓練に参加した人もすごいなと感じました。
- とても心に残るご講演だったと思いました。ちょうどウクライナ戦争の時にウクライナに行っていてすごい方にすごく貴重な話を聞けたと思いました。現地であった出来事やウクライナの方の戦争時の生活などリアルな話を聞けました。心に残っていることは、ウクライナは昔にもロシアから攻撃されていてウクライナ人の中でもまたいつか襲われると思って週末などに銃の扱いなどを練習するという人もいるということです。昔にも攻撃をされていたということにも驚いたし、今回の侵攻が起きる前から何年も銃の修行をしていたという人がいるということにも驚きました。他にもロシア軍が街の関係ない人にも殺してメチャクチャにしたという話がデマか本当かという話で本当だという根拠が金成記者が実際に現地に行って住民にインタビューして本当だということを確認したということがすごく勇気があって興味を持ちました。
- 今回、金成さんが実際にウクライナのキーウやブッチに行って体験して観たものを話してくれました。そのスライドショーの最初はあるビルの下で軍事スペースが設置されており民間人が銃の扱いの訓練や撃ち方を教えてくれるスペースがあり僕はビックリしました。後、民間軍事企業の中に若い女性や中学生が参加することに驚きました。しかし、その人たちは、理由があり参加していることを知りました。これに僕は感心しました。
- 現在、他の国(ウクライナ)では悲惨なことが起きているということは知っていました。しかし改めて、老人が銃を持って銃撃戦に備えている動画や、遺体、そ

して実際にその場において体験した金成さんのお話はとても悲惨で虚しいものと感じたと同時に、もし自分が同じ立場に立った時の勉強にもなって今回のお話はとても自分にとって大切な時間を過ごせました。

- 自分の子供を守るために、軍事訓練に参加している母親がいて、母親としての責任感があり、いいお母さんだと思った。また、ウクライナ軍が自国の滑走路などをロシア軍の侵攻を止めるために破壊したという話を聞いて、自国のものを潰してまで、国を守ろうとしているのがすごいなと思った。
- 実際にウクライナの現地に行って取材をしてきた人の話を聞くというのは初めての経験だったとしてもいい経験になりました。驚いたのは一般の市民が訓練に参加していたりと緊張感が伝わってきました。
- 金成さん、今日のご講演大阪からはるばるありがとうございました。戦地での取材という過酷さがわかったとともに、現地の人には戦火の中一人一人しっかり生きておられることがわかりました。やはり難民指定され、海外に避難するのではなく、現地に残って祖国を守りたいという気持ち、尊敬しなければならないと思いました。本日の質問セッションにて辿々しい質問申し訳なかったです。もう少し brushup すべきでした。終了後のご対応も重ねて感謝申し上げます。英語を引き続き勉強するのとプラス α で他の言語頑張ります。あと、死体(ご遺体といった方が良いですね。其れまでは生きておられたのだから。)わたしは正直ショックでした。逆に目をかつ開いて拝見させていただきましたが、普通の何気ない通りにご遺体が当たり前のように転がっているというのは、尋常じゃないことだと改めて認識しました。
- 本日はお話ありがとうございました。これまでメディアで拝見してきたものとは違う記者目線のお話が聞けて本当に貴重な体験だと感じました。ウクライナ戦争に関しての情報はもちろんニュースなどで確認していたが今日のお話で出てきたような空襲警報が2時間おきに鳴ったり遺体回収にも命の危険が伴うなどの話を知らなかったのもそういったことも知れて先程も述べた通り貴重な体験となった。
- 今回の講演を受けて、私は意外とロシアが進行し始めた瞬間を覚えてないんだなと思いました。日にちも大体に2月ぐらいとしか覚えてなく、詳しくは知らなかった。タトゥーアーティストが自ら、ブチャで殺害や虐殺をされた人たちを仮埋葬をしたことがとても印象に残りました。私はこんな強いことをできないなと思いました。

- 今回の公講演で私は情報の価値の見方を改めて考え直すべきだと感じました。ウクライナ侵攻が始まり、ニュースで多くの情報を目にしましたが一つのニュース番組しか見ていなかったのもフェイクニュースなどのことを把握していなかったのですが、今回の講演でフェイクニュースのことやその正確性を確かめる為にしていることなどを聞き正しい情報が貴重だと再認識しました。
- 今回の講演で1番印象に残ったのが、出回る情報はいつも正しいとは限らないということだった。ブチャの通りの動画に関して、ロシア側がフェイクだという主張を平気でしたことにとっても驚いた。これからは時事ニュースに関しても、ソースを確認して情報の真偽を確かめていきたい。
- ご講演について考えたことや感じたことは全然ウクライナ戦争のことを知らなかったということです。今回の講演を聞いてウクライナ戦争についてさまざまなことを知ることができました。例えば2014年にロシアが一度ウクライナのドネツク州に侵攻し占領していたということです。これを機にたくさんの世界情勢を知ってみたいです。
- 今まで、ウクライナ侵攻について、起こった後のことにしか焦点を当てられていませんでした。しかしながら、戦争前夜の市民の様子を見て、この侵攻が本当にこの世で起こってしまったという現実と、いかに市民の予想を裏切っていたのかを知ることができました。それに加え、ウクライナ侵攻というものは、他人事ではないということも実感しました。自己防衛のためにショッピングモールで射撃訓練を行う様子などを見ると、私たちが過ごしている日常は、特別なものであると考えさせられました。領土防衛軍の方や、遺体収集の方の話を聞くと、この瞬間にこうも悲惨なことが行われている国があることに、恐ろしさを感じました。このようなことが私たちの国で起こるのは絶対に嫌ですし、考えたくもありません。しかしながら、この1日1日を大切にしようという意識は本当に高まりました。もし仮に、この様なことが日本で起きれば、自分はウクライナの人様に行動できる勇気はありません。そして、同じ人間がこのような現実遭遇しているのは、絶対におかしいと改めて感じました。
- この世界にはいろいろな職業があり戦争が起きると多くの職業が非人道的な物に代わっていくのだと考えました。
- 僕は、ウクライナの人でさえ信じていなかったということに驚きました。また、ウクライナに志願兵として行った人たちは、誰もウクライナのために戦うというのではなく、全員自分たちのために戦うといていたことに感銘を受けました。

- ウクライナ戦争をただ報道で聞くのと、記者の方からの声を聞くことではうけるイメージが全く異なった。ウクライナ戦争に対して、多くのことを知らない私にとってとても良い経験になった。
- 自分も攻撃されるかもしれないというリスクを負ってまで、取材に行く金成さんが凄いと感じました。ウクライナが募集した、19 歳という若い方が志願兵に志願することに驚きました。また、政府の方ではない一般人の方がロシアに侵略可能性に備えていることを初めて知りました。
- 金成記者のご講演は侵攻直前に視点が当てられていて、独自性があり新しい知見が得られることができた。侵攻前日のウクライナの街の様子を知ることができた。ショッピングセンターで銃の射撃練習をしている様子を見て、もし日本でも戦争がおこったらこのようになるだろうと想像しました。
- 戦争は恐ろしいものだとは改めて分かった。そしてロシアのしていることの無慈悲さが伺える。正直あそこまで酷いものとは思っていなかった。
- 英語をしっかりと勉強しようと思ったことです。記者の仕事を知る機会が少なかったのも、とても記者の仕事やジャーナリストに興味を持ちました。
- ロシアがウクライナに侵攻してくる前と後での景色の違いに驚きを隠せなかった。前ではクリスマスツリーのイルミネーションの光や建物の灯りで神戸や大阪などの町並みとさほど変わらなかったのにも関わらず、後では真っ暗な世界が広がっていた。車の中から外を撮影すると、外が暗すぎてスマホの画面が反射するほどだった。他にもウクライナは母国愛が相当強い国ということを知ることができた。なぜならロシアが侵攻するのにあたってこれ以上ロシア軍向けに物資や、軍を送るのに必要なウクライナ自国の橋や滑走路を自ら破壊して通らせないようにしていたのに母国愛を感じた。また、いざという母国を守るために週末に早起きして 6 時間もの間、軍事訓練に励んでいた。僕が今回の講演で一番卑劣な行為と感じたのは SNS のデマ情報である。ロシアはブチャの町のある通りにて無差別にウクライナ人を殺していき、その通りをウクライナの政府がツイッターに投稿し現在の情報を世界に発信したのだが、その情報に対し、ロシアの政府がそれはフェイクニュースやらウクライナ人の死んだ演技であるなどと投稿したのである。この行為に僕はなんて卑劣な行為をした上にさらに SNS 上で、揶揄したとこに怒りを覚えた。
- ジャーナリストがいかに危険と隣り合わせな仕事なのかが伝わってきたのと、ロシアの軍事侵攻でウクライナの人々をどれほど大変な思いをしてきたのか

が伝わりました。ロシアの軍事侵攻で家族を亡くされた方や友達を亡くされた方、親戚を亡くされた方の精神的ダメージは計り知れないものだと思うし、今後の生活に支障が出てしまうのではないかと心配になりました。

- 今回は貴重なご講演ありがとうございました。今回のご講演を聞いて今回人の命の尊さと戦争の恐ろしさについて改めて感じました。
- ロシアの侵攻がどれくらい恐ろしいかを実感させられました。SNS の情報ばかり信用するのではなく、自分自身の目を見て、感じる必要があると思いました。
- 過酷な戦争が起きる場所に「取材」という目的で行くことの意義やその危険かつ勇敢な行為のおかげで得ることができる「嘘、偽りのない戦場でのリアル」という貴重な情報を届けることに尽力してくださった金成さんの勇気ある行動にとっても感化されました。僕は今回の公演で「嘘、偽りのないリアル」の大切さを知りました。歴史として知った、第二次世界大戦中に起きた各国間での戦争や事件の原因や真相が本当に正しかったのか、という疑問が自分の中で生まれ、現在も続いているロシアによるウクライナ侵攻の報道されているリアルな情報の”貴重さ”を知ることができました。 貴重なご講演ありがとうございました。
- 金成さんのご講演を聴いて考えた事は遺体回収という仕事も辛さです。戦争では実際に前線に立ち、戦う人ばかりが敬われることが多いですが本日の話を聴いて私は尊敬されるべき人は彼らだけでないのだと気づきました。遺体回収は死と隣り合わせの中多くの死体を見て、精神を病んでしまう方もいるほど重要であるとともに苦痛な役割だと感じました。しかも、こう言ったことを自発的に行なっている人がいるということに大変驚くとも敬意の念を抱きました。
- 今回の公演を聞いて、まず最初に思ったのは、自分たちが当たり前のように平和に暮らせていることは、実はとても幸運なことだということです。どんな時代にだって争いは起こるのだと感じました。また、正しい情報を選択する為にするべきことを学ぶことができたのも良い機会になりました。
- 自分が呑気に暮らしている世界とは裏腹に、こんなにも悲惨で残酷なことが行われているのかと驚きました。

- 軍事侵攻が起こってる中、恐怖心があるのにも関わらず、多くの人がウクライナのために戦うことを決意していることに驚いた。
- 今回の講演を聞いて、ウクライナの人たちの愛国心や心の強さに驚きました。命の危険を顧みず自国のために訓練し加勢していたからです。また、死の通りの動画を見て、戦争の残酷さを改めて実感しました。
- 私がニュースで知った内容よりもウクライナ戦争は酷いことがわかりました。金成さんの話や、写真、内容はとても生々しく、この軍事侵攻がいかに酷い物であるかを実感しました。
- 普段自分たちが読んだり、見たりする情報の裏で、誰かが命懸けで収集した情報だということを改めて知ることができた。実際に現地に赴き状況を確認することの大変さを知った。いかに情報収集に努力がいるか思い知った。
- 実際に戦争が起きている中、ウクライナまで行って危険を冒して、現地の様子を我々にもわかるように取材してくれるというのは本当に感謝しかありません。お話を聞いていて、処刑場で殺された人がいたり遺体を埋葬しようとしていたら撃たれたり、何の罪もない人が殺されていると知り、残酷な現実があるんだと気付かされると同時に、日本がいかに平和なのかを実感しました。
- まず、ウクライナ侵攻の始まる前後での違いというものがよく理解できました。例えば、街中の電力供給の話では侵略前後で世界が変わったようなまるっきり違っていたり、ロシアのブチャ占拠後の「死の通り」の様子を見るとまるで信じ難いが、これが現実なのだということに言葉も出なかった。現地の写真を見てみないとわからないことを理解できないことが沢山あり、貴重な体験ができたなと思いました。また、ウクライナ侵攻中(軍事衝突中はなかなか難しい)市民の本当の声を聞くことができたことは、本当になかなかできない体験でした。同時に、金成氏とウクライナの人々との関係を踏まえて見ると、ニュースを聞く時よりも想像がしやすかったです。また、改めて情報のソースを見極める力が必要だなと感じました。しっかりと信頼できるところから出典されているのかもよく考えて情報の取捨選択をしていきたいと思います。一番感じたことは、やはりウクライナは団結力がある国だと感じました。それはやはり国の代表のゼレンスキー大統領が国民を導いて行っており、それに市民がついて行っていることだと思いました。
- 本日は貴重なご講演ありがとうございました。僕はこの講演の中で、特にインターネットリテラシーと志願兵に興味を持ちました。fake news を認知し、インタ

一ネット上の情報の真偽を見分けられる力を見つける必要性を感じたからです。また、志願兵では他国から志願した人に惹きつけられました。戦争を自分ごとと思い、人のために行動するその行動力は素晴らしいものでした。これから、僕もそのような行動力を身につけられるよう頑張ります。

- 私は今回の金成記者様のご講演を聞いてロシアのウクライナへの軍事侵攻について現地にいた人の話を聞くことができることは大変珍しいことだなと感じた。ロシアのウクライナへの軍事侵攻のニュースはよく聞いていたが女性が銃を持って戦っていることは知らなかったので大変驚いた。
- 現場は私たちが容易に理解できるものではなく、多くの人が想像しているものよりも遥かに悲惨な状況であることがわかった。特に、処刑場(である可能性が高い)は軍事侵攻の恐ろしさを象徴するものだった。金成さんのお話は非常に聞きやすく、非常にわかりやすかった。疑わしい情報の真偽を確かめるために、自ら足を運ぶ行動力に感銘を受けた。
- 今回の金成様のご講演を聞いて、改めてロシアはとても恐ろしい国だと感じた。世界史、日本史を習っている上でも恐ろしい国である上に、今のウクライナ問題に対しても、事実をフェイクと言ったり、一般人を普通に虐殺、拷問を行ったり、しているのでとても非人道的であり、自分勝手な国だと思った。
- 今回、実際にウクライナに赴かれた方のご講演を拝聴できたこと大変嬉しく思う。金成記者のお話は、現地に行かれた方にしかわからないことばかりで、大変勉強になった。特に、ロシアによるウクライナ侵略前の街の状況、市民の反応と侵略途中の街の状態、市民の反応は、実際にウクライナに行かれた方にしか伝えられないものだと考える。また、戦時下におけるメディアの役割についても考えさせられた。戦時下における国内メディアは、多くの場合その国に有利なことしか流さない傾向にある。その最たる例が、ロシア国内のメディアである。そのメディアの発信内容を公平な立場から検証できるのは、海外メディアだけである。金成記者の行なってきたことは、これに準ずるものである。そのため、金成記者のやってこられたことは賞賛に値するし、真のジャーナリストである。
- 金成さんのお話を聞いたことで、ニュースでは中々聞くことができない住民のインタビューについて詳細な内容を聞くことができてよかった。ニュースではよく何人亡くなったのかということに目が行きがちだが、たとえ生存していても、PTSD といった侵攻の後遺症に罹患する恐れがあることに驚かされた。

- まず一つ目に、戦争についての人々の考えの差、愛国心や自己防衛のために銃を持つ姿を画像や実際例を通して話を聞くことで、当たり前ではあるが今まで以上に戦争はすべきものではないと感じた。私たちはもっと社会の課題（現在はウクライナに加えてイスラエルも）について知る必要があり、学び考えなければいけないと感じた。二つ目に、メディアの扱いについてだ。実際に現場に行かれた金成さんは、虚無情報を目で見て確かめるの記者の務めだとおっしゃっていたが、メディア化が進む現代社会において情報の使い方はすべてのユーザーが理解する必要があるとかんじた。目の前にある情報をただ信じるだけでなく実践的に向き合い現場に行くなどして物事に取り組むことは今後の人生でも役立てていきたい。最後に、質疑応答の時に仰っていた「英語は人生を楽しくするツール」という言葉である。実際にグローバルコースで英語に多く携わり、留学に行った経験からも英語を学ぶ楽しさを感じていた。そんな中、英語を使用し仕事をされている金成さんの姿を見て、今後自分自身がどのような職につくかはわからないが、英語を学ぶことを大切に、継続していこうと感じた。
- とても貴重な経験でした。ウクライナに直接行ったことがなかったため、いまだにあの戦争を信じていなかった。今回のお話を聞き、ロシアの恐ろしさを実感した。
- 今回の講演は貴重なものであった。なぜなら、実際に現地へ取材へ行き、真実だけを知ることができたからである。例えば、戦前では民間人が軍事侵攻が始まることを察知し、自分から軍事訓練に参加している人がいた。また、ある人はロシアのハッターであろうとまた、ある人は今回は攻めてくるだろう、という意見があったと伺った。そして、実際に軍事侵攻が始まり、およそ 18 歳から 60 歳までの市民がたくさん領土防衛軍の軍事訓練に志願した。この話を聞き、今の日本人とは違い、愛国心、家族愛が強いと感じた。なぜなら、自分の国を守り、家族を守りたいという人が多いからである。外国人志願者は、自由と民主主義のために参加したと伺い、自国だけでなく、他国のため、人のために行動する人が実際にいるのだなと感銘を受けた。
- 私はキーウ周辺出身のウクライナの友人がいるのですが、今回の公演でいかに凄惨な環境から来たのかを知ることができ改めて彼の凄さに気づくことができました。また、取材のために戦地に実際に足を運ぶジャーナリストの方がいるのは知っていたがあそこまで踏み混むとは知らず、こう言う方のおかげで正しい情報を得られているととてもいい機械となった。

- フェイクニュースかではないかを慎重に見分ける必要がある
- 私はロシアによるウクライナ侵攻後、ウクライナ募金活動に参加するなど、以前からウクライナ侵攻に関心がありました。今回ウクライナで実際に取材を行った金成記者が、私たち甲南生のために公演を行ってくださり、この公演を通して、ニュース以外での視点からウクライナ侵攻の現実を初めて知ることができました。侵攻が始まる前から、ウクライナ国民が銃の操作訓練を自主的に行っていたことや、軍の演習に女性や高齢者が参加していること聞き、ウクライナ国民の一部がロシアの侵攻は現実的であると考えていたことに驚きました。またウクライナの領土の一部であるブチャがロシアに不法占拠され、多大な人道被害が発生しました。ロシア軍の撤退後、ブチャで発生した悲惨な虐殺についての話を聞いたことや、遺体の処理に携わる人と金成さんの取材の話を聞き、胸が痛みました。ニュースでは得られないウクライナの現実を知ることができたこの機会は、私にとって非常に貴重な経験ができたと感じています。
- 以前までは直接的な死傷者以外の事について考えることがなかったのだが、実際に現地に行った人の話を聞く事で精神的な深い傷もあると言う事を知ることができた。
- 2022 年 1 月からロシアがウクライナに集まり始め、一部の市民が軍事演習をしていたことを初めて知った。市民が戦争に参加するというのを知ってはいたが、どのように訓練するのか気になっていたため知れてよかった。また、大学で軍事について学んでいることにも驚いた。8 年前にもウクライナは侵攻されているという事例から行われていることなのかも知れない。
- 今回の公演を聞き、ウクライナとロシアの武力侵攻の現状を知ることができました。ニュースで見るより、細部を知ることができました。
- ウクライナの被害や実際に何が起きたのかを理解することができた。自分自身あまりニュースや自治問題に関心を持つことがなかったが、興味を持つことができた。
- 以前にドネツク州が占領され、ウクライナ侵攻が始まる前から、ウクライナ国民は危機感を持っており、侵攻が始まった場合に備え、祖国や同胞を守るために行動しているのが日本にはない感情で驚いた。

- ウクライナに関する問題の悲惨さを改めて知った。普通の日常から一気に、悲惨な状況になってしまう恐ろしさがわかった。記者としての目線で、事実を伝えることの大切さを知った。
- はじめに私は、ウクライナ戦争が始まってからもう2年近くが経とうとしていることに少し驚きました。時の早さをここで感じました。2014年にもウクライナがロシアに攻撃を受けていた話は初めて知りました。二回も攻撃されているウクライナをかわいそうだと思いました。また銃の射撃訓練に参加していた人たちは、意識が高いように感じました。例えば、知的障害の子供達を守るために訓練に参加したり、自分たちの国の家族や故郷などを守ために訓練に参加したりしていたことなどだ。また、忙しい中でもメディアの取材に答える人もいた。忙しい中でも自分の国の現状を正しく述べることは大切だと学びとれた。
- 軍事侵攻により、多くの人々が犠牲になり、避難民の数が増加しています。国際社会は人道的援助を提供し、避難民の支援に尽力すべきであったと感じました。人道的原則を尊重し、被害者の保護と支援を最優先とすべきことが私の考えたことです。
- 普段私たちが日常的に聞いているニュースは記者たちの努力あってこそのものだと感じた。特にウクライナにおける戦争のニュースでは実際の戦地へ赴いていることに驚きを感じた。これまでウクライナのニュースは現地の人々から提供された状況を他国にいる記者がまとめたものであると信じていた。しかし、金成さんのお話を聞き、記者という仕事の大変さ、その勇敢さを思い知った。
- 感じたことは、人は異常が続くとそれが通常になってしまうことの恐怖と人のために役に立とうとする人たちの覚悟と信念を感じた。客観的に見れば蛮勇であるが、主観的に見たら強く共感できる。考えたことは、ウクライナの人たちは国のために、家族のために命をかけてるが日本が同じ危機に直面した場合、日本人は国のため家族のために命をかけて戦うのかが不安になってくる。
- この講演の中で一番記憶に残っている話は、ウクライナ軍が自分たちの空港をわざと破壊したところです。もし、ロシアがその場所を狙ってなかったら多額の損害になったのにもかかわらず、成功したため素晴らしい判断だったと思います。

- ウクライナ市民は 2022 年 1 月のロシアとウクライナ間の緊張が高まった頃から訓練に参加し、女性や 14 歳の中学生、私達と同年の人も家族や団体を守るために参加していると聞いて驚いた。現在の日本で、私達のような学生が戦闘に参加することはおそくないが、自分が戦争に参加するという立場に立つ恐ろしさは計り知れない。そして、市民対象の訓練には毎回 300 人以上が参加しており、ウクライナ市民がいかに危機感を感じているかを知った。そして、私が衝撃を受けたのはウクライナの女性で「自分がやらなければ、やられる。誰も守ってくれない。」という言葉だ。その女性は 2014 年にもあったロシアによる侵攻でそれが明らかになったと行っていた。だから、自分も闘うと答えた。この言葉はとても心に響いた。そして、戦っている中でも金成さんの取材を受けるのは、海外メディアに本当の情報を伝えるためで、ロシアは第三者に嘘の情報を流すのが上手だからだったそう。そして、ロシア軍はブチャで市民を殺害したり処刑するなど、様々な非人道的行為をしていた。私は、当初ロシアにも何か事情があるにだと思っていたが、それは虐殺であったと金成さんは仰っていたので、SNS などのニュースはあまり信じない方がよいことを学んだ。
- 今回の公演を聞いて、ウクライナとロシアの戦争状況を理解できた。今まで、あまり詳しくなかったのも、良い機会になった。ロシアによるウクライナ侵攻が始まる際のウクライナ国民の状況や心境を知れた。特に、大半の市民がロシアによる侵攻のあり得ないと考えていたことが印象的だった。日本でも、台湾有事が迫っているが、大半の日本人はこの有事が起きないと考えている。ウクライナ侵攻と同様に、最悪の場合を考えて行動する必要があると思う。
- 私が金成氏のご講演で最も印象に残っている内容は、クリミア・タタール人のルミア・ロマネンコ氏についてのエピソードである。彼女は 50 代であるにもかかわらず銃を握りしめて、軍事訓練に参加していた。その理由は、過去に自国が脅かされていたという歴史を知ったからである。自国、そして自分自身の歴史やルーツを辿って、自分がすべき行動を判断した彼女に感銘を受けた。
- 私は今回の講演から現地に訪れることの大切さについて改めて考えられた。お話の中にもあったフェイクニュースの問題に対して金成さんは、実際に関係者に取材し当時の状態を語ってもらうことによってブチャでの出来事について実際にあったことだと断言をしていた。特に遺体回収を行っていた人への取材では精神が蝕まれていく中でも自身がやるしかないと取り組まれていた方の話は日本では考えられないことだったので驚いた。また軍関係者への取材の中で自国の滑走路や橋などのインフラを破壊することでロシア軍の侵攻を

食い止めるということを聞いて、改めて軍事侵攻による被害の大きさについて学んだ。

- 今回の金成記者のウクライナに関する講話を聞いて、ウクライナ人が個人で持つ戦争に対する意識は非常に高いものであることを知った。知的障害の子供を抱える美容師のタチアナ氏は周りに頼るのではなく、自らの手で子供を守るという強い意志を感じた。また、医師であるマルタさんはロシアの情報戦に少しでも対抗しようと、激戦区から軍事侵攻の真実を話してくださった、という話を聞いて、本当にウクライナの人々は自分達の国に誇りを持ち続けているんだなというふうに感じた。
- 英語のほか、第3言語を勉強した方がいいと感じた。ウクライナではあまり英語を喋れない人が多いと分かった。
- 実際に現地に足を運び、現地で起こっていることを自身の目で確かめる勇氣と責任感があるのだと感じた。ロシアが、あれはフェイクだ、これはフェイクだと発言していく中で、自身の取材力を活かして、事実を確認していく姿がすごいと思った。
- 今のウクライナは昔の日本みたいに今深刻な状況ということがわかった。しかし、最近ではイスラエルのことで最近のウクライナ情勢があまり知らなかったのでもとても良い時間になったと考えている。
- 今ウクライナで起こっていることが本当にあってはならないことだと思う。日本のメディアでは死の通りのように死体が道に何人もいるような情報が流されず死者が何人や建物の崩壊後の様子などが映されているため実際に現地に行かないと分からないようなことが多くあると感じた。
- 絶対に普通のメディアからは得ることができないことを知ることができ、もともと私が知っていた情報よりも現実には恐ろしく、メディアが出す情報の偏りを感じ、思っていた以上にウクライナの問題は深刻で、キーウが解放された後でも被害者たちの心の傷が治るまで戦争は終わらないと思った。
- 今回は貴重なお時間をいただきありがとうございました。今回の講演では、実際にウクライナに行った方のお話ということもありとてもリアルな感じが出ており、とても興味深かったです。私自身もウクライナ人の友達がいるということで、話を聞いていたのですがまた、違う角度からの話ということもありとても良かったです。

- 今回貴重な公演を聞いて実際にウクライナに出向いて、軍事侵攻の現状について、現地の人に、インタビューをしているのがすごい仕事をしているなと感じました。
- ウクライナに対して、細かい情報を知ることができてよかった。私が知ることもできないようなストーリーや思いを強い気持ちで聞けたことが感動した